

今、MSS(三菱一号館美術館サポーター制度)にご入会頂くと、  
下記展覧会を入会期間中何度でもご覧いただけます！

2017年2月3日

## 三菱一号館美術館2017-2018展覧会スケジュールのお知らせ

### レオナルド×ミケランジェロ展

2017年6月17日(土)～9月24日(日)  
主催：三菱一号館美術館、日本経済新聞社、テレビ朝日

15世紀イタリアで画家として才能を発揮し、建築、科学、解剖学の分野にまで関心を広げ「万能人」と呼ばれたレオナルド・ダ・ヴィンチ。10代から頭角を現し「神のごとき」と称された世紀の天才彫刻家ミケランジェロ・ブオナローティ。本展は、芸術家の力量を示す上で最も重要とされ、全ての創造の源である素描(ディゼーニョ)に秀でた2人を対比する日本初の展覧会です。素描のほかに油彩画、手稿、書簡など、トリノ王立図書館やカーサ・ブオナローティ所蔵品を中心におよそ65点が一堂に会します。

イタリアが生んだ2人の天才の「最も美しい」とされる素描、レオナルド作《少女の頭部/〈岩窟の聖母〉の天使のための習作》と、ミケランジェロ作《〈レダと白鳥〉の頭部ための習作》を間近で見比べる貴重な機会となります。

### トゥールーズ=ロートレックと

#### 19世紀末パリの版画・ポスター展(仮)

2017年10月18日(水)～2018年1月8日(月・祝)(予定)  
主催：三菱一号館美術館、アムステルダム、ファン・ゴッホ美術館

19世紀末パリ、それまで情報伝達や複製の手段でしかなかった版画は、芸術家たちの表現の可能性を広げる最先端のメディアとなりました。彼らは版画を芸術の域まで高め、20世紀以降のグラフィックアートの原点を築きました。一方、大都市パリで消費や歓楽、遊興といった大衆文化が開いたのもこの時代です。街中や劇場内のポスター、本の挿絵など、かつてないほどのイメージが世に広がり、幅広い人びとが日常的に芸術を享受できるようになったのです。

本展は、世界有数の19世紀末版画コレクションを誇るファン・ゴッホ美術館と、トゥールーズ=ロートレックの貴重なポスター・リトグラフコレクションを所蔵する当館の共同企画によるものです。トゥールーズ=ロートレックをはじめ、19世紀末パリを代表する画家たちによる、選りすぐりの大変保存状態の良いグラフィック作品が一堂に会します。

### ルドンの植物誌展(仮)

2018年2月8日(木)～5月20日(日)  
主催：三菱一号館美術館

オディロン・ルドン(1840-1916年)は、印象派の画家たちと同世代でありながら、幻想的な内面世界に目を向け、その特異な画業は、今も世界中の人の心を魅了して止みません。なかでも本展は植物に焦点を絞った、前例のない展覧会です。

当館が所蔵する《グラン・ブーケ(大きな花束)》は史上最大級のパステル画で、ドムシー男爵の城館の食堂を飾る装飾の中心として構想されました。本展では、同食堂の残りの15点の壁画(オルセー美術館所蔵)と合わせ一堂に会する、貴重な機会となります。また、出品作およそ90点のうち大半は、オルセー美術館、ポルドー美術館、シカゴ美術館、プティパレ美術館(パリ)、フィリップス・コレクションなど海外の主要美術館の所蔵作品により構成する、大規模なルドン展となります。

※展覧会のタイトル・会期・内容等は2017年2月時点のものであり、今後変更になることもあります。最新の情報は美術館サイト(<http://mimt.jp>)をご確認ください。



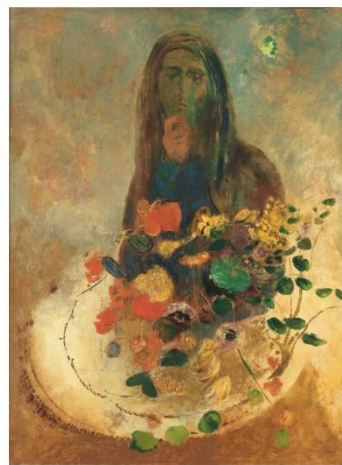
レオナルド・ダ・ヴィンチ  
《少女の頭部/〈岩窟の聖母〉の天使のための習作》  
1483-85年頃、トリノ王立図書館  
© Torino, Biblioteca Reale



ミケランジェロ・ブオナローティ  
《〈レダと白鳥〉の頭部ための習作》  
1530年頃、  
カーサ・ブオナローティ(フィレンツェ)  
© Associazione Culturale Metamorfoosi  
and Fondazione Casa Buonarroti



Henri de Toulouse-Lautrec *The Female Clown at the Moulin Rouge*  
(*La clownesse au Moulin Rouge*) 1897,  
Van Gogh Museum, Amsterdam (Vincent van Gogh Foundation)



Odilon Redon  
*Mystery*, ca.1910, oil on canvas, 73x54cm.  
The Phillips Collection.